

平成22年7月26日(月)

読売新聞 朝刊



一斉にスタートする参加者

川下り42チーム競う 遠賀川22キロ

手作りのイカダや舟で速さを競う「遠賀川下り大会」が25日、飯塚市から直方市まで約22キロのコースで行われた。河川環境の保護のPRな

どを目的に有志による実行委員会(太田勇司委員長)が開いており、今年で31回目。前面の幅が70センチ以上のイカダと、それより小さい舟の2部門に、県内各地や山口県から社会人や学生の42チーム、計400人が参加した。

1隻に2〜6人ずつ乗り込んだ各チームは、午前8時半に飯塚市中心部の芳雄橋付近を一斉にスタート。直後に転覆してしまうチームもあったが、参加者らは懸命にオールをこいで、直方市の菜ノ花大橋近くのゴールを目指した。

実行委事務局長の棟形和義さん(61)は「もっと参加者を増やして、多くの人が川に関心を持つようにしたい」と話していた。

上位の結果は次の通り。

【イカダ】①ハイブリッドのお店福岡トヨタ(2時間18分5秒) ②AU10みらい(2時間26分49秒) ③池田石油・

飲んで号(2時間30分27秒)

【舟】①JEEP-22(1時間40分1秒) ②海面クラブ(1時間57分43秒) ③オルソ1号(2時間8分21秒)



真夏の遠賀川 汗かき川下り

遠賀川を伝って飯塚市から直方市までの約22キロをいかだや舟で下る「遠賀川川下り大会」が25日、実施された一写真。31回目となる今年には県内外から職場や大学などで組んだ42チーム約400人が参加し、真夏の日差しを受けて汗だくになりながら、懸命にパドルを動かした。

飯塚市の芳雄橋付近を午前8時半に出発。スイスイと進む舟があれば、ほかの舟とぶつかったり、まっすぐ進まなかつたりするいかだもあつた。ゴールは直方市の菜の花大橋先。舟の部1位の「JEEP-22」は1時間40分1秒で到着し、いかだの部1位の「ハイブリッドのお店福岡トヨタ」は2時間18分5秒だった。

飯塚市から北九州市までおよそ22キロをいかだや舟で下る「遠賀川川下り大会」(実行委主催)が25日、開かれた。県内を中心に42チーム約400人が参加し、照りつける太陽の下、懸命にパドルを操り、2〜3時間かけてゴールを目指した。

川に親んでもらい、環境保全を考えてもらおうと、1980年に始まり、今回で31回目。毎年エニクないかだや舟が登場。今年は船を馬に真立て、

川下り大会 42チーム参加

船首に馬の真をつけた舟や、屋根付きの避暑いかだも見られた。

スタート地点となった飯塚市の芳雄橋付近では、約200人が見守り。一言にスタートすると「頑張れ」「もっと早く漕いで」となど声援を送っていた。上位入賞チームは次の通り。

【いかだの部】①ハイブリッドのお店福岡トヨタ②A10みらい③池田石油飲んで号

【舟の部】①JEEP-22②海面クラブ③オリーブ号

飯塚—北九州市間



懸命にパドルを漕いで、川を下る参加者たち

手製いかだや舟 遠賀川スイスイ